



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：米国同時多発テロ事件以降のサウジ政府によるテロ対策  
(12日付アラブ・ニュース紙)

12日付アラブ・ニュース紙は、「米国同時多発テロ事件」以降のサウジ政府によるテロ対策の一端について報じている。

1. 「米国同時多発テロ事件」10周年を迎えたが、サウジにおいてこれまで発生したテロ事件を振り返ると、最も被害が大きかったのは2003年であった。
2. 2003年には12のテロ事件が発生した。治安当局関係者だけでなく、一般市民や在留外国人にも被害が及び、約350人が死亡、770人以上が負傷した。一連のテロ事件により、サウジは世界で最もテロの被害にあった国となったが、それ以降、軍事作戦の遂行やイスラムの正しい教えの普及を通じて、テロとの戦いを成功裡に進めてきた結果、220のテロ計画を未然に防止し、テロリストのセーフ・ヘイブン（安全な逃避地）を国内から一掃するなど、テロ対策における重要なパートナーという立場をより強固なものとした。
3. サウジは、テロとの戦いに身を投じる中で、テロ裁判のメディアへの公開も行ってきた。最近では、「地下組織」の構成員と疑われる被告75人の裁判がジッダで始まった。このうち、16名が政府転覆を企てた容疑をかけられている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799